



理科大学通りの交通問題について

2030年(令和12年)に東金町一丁目西地区の市街地再開発事業の竣工とのこと

ですが、金町駅北口駅前広場から理科大学通り全線へのスムーズな交通動線の実現について、どのような計画となっているのか教えていただきたい。



理科大学通りの歩行環境の改善は喫緊の課題と認識しており、令和元年に都市計画決定した「東金町一丁目西地区地区計画」において将来「拡充を図る」箇所として位置付けしています。



金町駅周辺の利便性向上について

来年度策定予定の「金町駅周辺地区まちづくりプラン」において、理科大学通り、しょうぶ通りの

の拡幅、駅前広場の拡張整備により、安全性や利便性の向上を図るとあるが、見通しを説明いただきたい。



駅前にはUR金町駅前団地と商業施設があり、地権者の協力を得て用地確保したうえで、理科大学通り、駅前広場、しょうぶ通りの一体的な整備が必要となります。UR金町駅前団地には拡幅予定の駅前広場及び道路用地と重複する区域があるため、現在の都市計画を補完する新たな都市計画が必要となります。



URや関係機関との協議状況について、もう少し詳しく教えてください。



新たな都市計画を策定するために、地権者であるUR及び常総開発(株)と協議を行っているが、建て替えも含めた再編の検討など具体的な計画は未定なので、区としては「金町駅周辺地区まちづくりプラン」を策定し、早期に団地再編の検討を進めてもらうようURに要請したいと考えています。



URについて

UR金町駅前団地は、築何年なのか。敷地はすべてUR所有ではないのか。



昭和43年(1968年)に管理開始された総戸数1,417戸の団地で、築52年となります。1号棟と東急ストアがある商業施設の敷地は常総開発(株)と個人6名(+共有者3名)の所有でURは借地権者という立場です。2号棟から4号棟の敷地はUR所有となっています。

金町駅周辺の街づくりについて



12月9日に開催された都市基盤整備特別委員会において副委員長として区に要望した模様をお伝えいたします。



都市計画決定をしないと、道路拡幅や駅前広場の拡張はできないのか。



不可能ではありませんが、本件ほどの大規模な道路整備は、都市計画に位置付けた上で事業を実施すべきと考えます。例えば道路事業で用地取得を進めていき、難航地権者がいた場合、認可が別途必要となり、手間と時間がかかります。一方、都市計画事業として用地取得する場合には、都市計画事業の認可で土地収用を行うことが可能となります。なお「都市計画事業」で道路拡幅を行う場合は国から交付金が2分の1入り、「道路事業」では区の単独負担となるため、都市計画事業として進めるべきと考えます。



理科大学通りの全線拡幅について

金町地区センターが再開発で整備する建物に移転する計画となっているため、理科大学通りの全線拡幅は、再開発事業の竣工時と同時にはできないのか。



再開発事業の竣工後に金町地区センターが移転し、その後敷地の道路部分の拡幅が可能となりますので、竣工と同時に拡幅工事を完了させることはできません。区としては様々な事業手法を検討し、早期の都市計画決定を目指し、市街地再開発事業の竣工時期までに、駅前広場、理科大学通り、しょうぶ通りの拡幅用地をできる限り確保したいと考えています。

要望 まとめ

金町駅前通りの道路拡幅は多くの方が要望されている事案ですので、区には一刻も早い交通・歩行環境の改善を望みます。加えてしっかりと都市計画決定の道すじをつけて、早期の整備を強く要望します。

